

大分・九重のミヤマキリシマも咲いて「みんつど」



記念号の後半戦、トッスバッターは北九州市Kさん

魔力にはまっただぜ

50号おめでとう。

まずは、たびたび「みんつど」に写真を掲載してくれたことにお礼を言いたい。俺はド素人のスマホ写真家なので、日常のピンときたその瞬間をパシャリして、ひろゆき（天地成行）に送っていただけ。でも、この素人写真が、「みんつど」に掲載されると驚くほど様になっている気がするのだ。これは、ひろゆきの編集者としての才能による「みんつど」紙面の素晴らしき魔力のおかげだと思っている。

次に、最近、「みんつど」の存在が、ゆるく支えになっていると実感した。俺はこの春に7年在籍した部署から新しい部署へと異動した。俺も変化に耐えられない年齢になったのか。新しい業務が嫌なわけでもなく、新しい職場に嫌な人がいるわけでもないのに、仕事に行きたくないという気持ちで心が曇り、夜眠れない、朝起きられない、そして酒を飲む日々が続いた。日常が完全に崩れてしまっていた。そんな時、俺は独りじゃないと感じさせてくれたのは、「みんつど」とひろゆきの存在だった。そのおかげもあって、6月になってからは大分・九重の山にミヤマキリシマを見に行くこともでき、全快とは言えないものの、ほぼ日常を取り戻せたように感じる。

この春、俺の心は風邪をひきかけたのかもしれない。でも、俺には親友ひろゆきと「みんつど」、そして「みんつど」に関わるたくさんの人たちがこの世界に存在するという事実が、何となく支えになったような気がする。具体的でもない漠然としたそんなゆるい感じが、風邪をひきかけた俺の心にはちょうどよかった。

さて、「みんつど」とはこれからも前のめりでもなく一歩引くわけでもなく絶妙な関係で付き合っていこうと思う。

そんなわけで、ひろゆき、お疲れさま。今までありがとう。そして、これからもよろしく。

（北九州市・K）

四恩人寄稿 河村正浩さん（俳句雑誌『山彦』主宰）

着膨れて虎の視線の中にいる 『秋物語』

次いで、オランウータンが檻から人々を眺めている。

獣園にヒト科屯す春日差し

そして、ひよつとしたら、

啓蟄や策を巡らす檻の猿

『秋物語』

自然界においてもしかり、

放蕩の眼をさしむけて囃す鴉

『つれづれ』

※鴉は「もず」

尺取りのさびしきときは棒立ちに

『春宵』

それはまた、対象の気持ちになつて、更には対象の視線を借りて詠むこともある。

□ □ □

河村先生からは、趣深い寄稿をいただきました。ありがとうございます。先生からは、「ぼくと天地君のことは、やはり『わたしは山頭火！』」（くるとん）や、『ココロトノウ、俳句ごっこ』に詳しく書いています。それ以上はなし」という私も確かにそう思いました。今後ともご指導お願いいたします。（なりゆき）※寄稿はつづく

ために広がる思想

俳句を始めて五、六年経っていたらうか。ある日師匠が言った。

「正浩君、我々は対象となるものを見て俳句を作るが、言い換えると、逆に対象から眺められているんだぞ」

（ああ、そうですね）

いかにも分かっているような素振りです。答えたが、内心いいことを聞いたと思つた。

ある日のこと、友人が花をつけた菫

（こんにやく）を見て聞いた。

「おい、河村、これはなんだ」

「ああ、菫だ。菫は雌雄異化植物なんだよ」

と得意気に答えた。そして、

菫の花を何かと問われたる

友人と別れて、一人になった私に菫が憮然（ぶぜん）として言った。

「何だよ、彼奴は、失礼な。俺の知らないのか」

「まあまあ」

と諷めて、

菫の花に何かと言われたる

「問はれたる」でも良いが……。この句は助詞の「を」「に」にしたに過ぎないが、対象側の視線へと変わった。

皇居のお堀。曼殊沙華（まんじゅしゃ

げ）があちこちに咲いていた。外人さんが物珍しそうに見ていた。

青い眼をおよがしてある曼殊沙華

『つれづれ』

山口市小郡の其中庵でSさんが熟柿を啜（すす）っていた。

とは言えど熟柿に口を吸われたり

『春宵』

山肌をえぐり取られている採石場だつて、

削られて削られて山笑ひをり

『春宵』

「山笑ふ」……春の山を擬人化した季節語

最も典型的なのは動植物や水族館である。我々は檻の中や柵の中、或いは水槽にいる動物をさぞ珍しそうに見て回るが、動物側にしてもしかり。猛獣などは、

「こいつは美味そうだ。こいつは不味いぞ」などと見ているかもしれない。しかも胡散臭そうな眼で。

虎と視線が合った。身動きもせず確実に私を見ている。射すくめられ身動きができない、そんな迫力があつた。

世界平和?へ新冊子を

天地成行あり方委員会開く

天地成行C: あー、だるー。やっとれーん。(たばこをぶかす)

天地成行B: あー、つかれだー。のどかわいたー。(アイスコーヒーをがぶがぶ飲む)

天地成行A: おいおい、CさんにBさん。いくら酷暑だからといって二人でさぼったらこのコーナーは進まないだろう。何かあるからこうして今回も立ち上げたんだろう? 一人で三人の人格をもつ我々で、今回は、なにを話し合いたいんだい?

天地成行C: おおAか。



80億部刷れぬか (C) オールカラーは (B)

実は一周して疲れ切っていましたー。

天地成行A: そっかー、この29号から50号をな、冊子にしたいわけよ。思い切って80億部! スアレスさんから今年の春にカンパをいただいたのー。こりゃ、やらん

天地成行A: ...みんないろいろ考えちゃって、オーバーヒートしたんだね。今回の冊子はさ、とりあえず背伸びせずに、以前40号で刷ろうかというときのようにならぬか

天地成行C: ...なかなかわかりやすい。Aよ、ハイパーでなければ、やはりお前が一番役に立つな。では、その線いこうか、もう頭が回らんわい。

百部白黒 (A)

わけにはいけんわいね。のうBよ。

天地成行B: はい、神経質なわたしはそれで、オールカラーで、お金を助成してくれるところはないかと、出版社で請け負って



天地成行A: ...はい、というわけで、頭がぐちゃぐちゃして、他人さまを困らせるようなことがあつたら、「天地成行あり方委員会」を開催して、頭を整理しましょうね!

天地成行C: ...いいところはないかと、いろいろ書類をちゃっついていたんですよ。それで安溪先生に何回もメールしていたら、先生も嫌気がさしたんですよ。ついに返事が来なくなり

天地成行A: ...好評なら増刷するだけよ。ネットですら、無理は禁物ですよ、お二人さん。百部で白黒で結構です。

天地成行B: ...C: ...さっかー、Bはくそ笑む)

(続く)



天地の母・はるみのレスキューストーリー②



初入院でつい帰り道に泣いちゃった

と言い、

「お母さまは、息子さんの入院で心配事は何かありますか？」といわれるから、「本人がホツとしているようなのを感じて、安どしました。わたしもひろゆきが不安定でどう対処したらいいかわからなかったから入院させてホツとしましたわいね」と返した。その時は忘れてたけど、アンタに会いに病院に行って「母ちゃん、雨が降り始めたから、タクシーで帰рийよ」と言われたけど、私は一時

「読んでよかった。どうやったたらあのような境地になれるんだろう。感心してしまいます」（医療関係）など連載開始で即、反響をいただいております当企画。天地成行（49）の母・はるみさん（83）がいかに息子の理解できない奇行に反応し、受容し、ココロを整えて向き合ったかを赤裸々に綴（つづ）ります。今回は、統合失調症にかかり十年で、そうに転じて初めて精神科に入院した時の知られざる、はるみさんの心情をお届けします。

今回は、『わたしは山頭火！』（くるるとん）入院の項（56ページ）からの内容になる。息子のひろゆき（天地成行）が母に、「（入院するなら）今日しかない」と山頭火並みに何十キロもサンダルで歩く奇行を繰り返した2014年の梅雨の時期は、母・はるみにとって、とてもつらい時期であった。ついに40歳になる息子を精神

科に保護入院させることを決める。保護室に入ると聞いてさらにつらさが増した。翌日に、納豆巻きとスポーツドリンクを差し入れに行く。その時の心境を聞いた。

「彼は落ちついていらつしゃいますよ」

間かけて歩いて帰ったんですよ。それで結構雨がひどくなつて傘を差して歩いていたら、なんだかよくわからんけど、とにかく涙があふれ始めてきたんですよ。こんなことは、アンタが病気になって十年なかったんよね。だから不思議。長い間、なんでも思っていたら、アンタが統合失調症を発症してから十年、ずばり「泣く暇がない」ということに気づいたのよ！ まず、離れて暮らしていたからあんなに元気の良かったアンタが、ずばりと覇気がなく別人格になつていて、病気の理解に苦しんだこと。休職と復職を繰り返して、引越もしましたり、栄養管理をしたり、お

父さんたちと別々の暮らしで気をもんだり、本当に忙しかった。あのときは60代だったからできたんよ。今だったら考えられんわ。アンタが調子が少しはいい時に散歩を兼ねて、下町の銭湯めぐりをしたわね。あれは思い出深いわ。それから、浜離宮や上野の岩崎邸など名所めぐりの散歩も。めぐったのは病院もだわね、アハハ。いくつ変わったか。さらには電話帳で探して、豊島区のビルの一室で怪しい機械のペンを手のひらにあてて心の状態をモニターで診る一回二万円のへんなのもあった。あなたの心は蜘蛛の巣みたいにかまつまつちよつたてき。（続く）

みんつど
50号第二弾
愛が地球救う
編集：天地成行

懐かしい、紙面やあの人あれこれ

来年もきちんと来ますように

みんなつど 第二号
村岡鍼灸治療院
山口市湯田温泉5丁目6の1-2

コロナがあった。みんな大変だった

私も経験済みで
ぜひ飲み続けて

マスターエックスのプロフィール

レストハウス 湯田温泉川原の5の556
たんぼぼ TEL 083-4400000

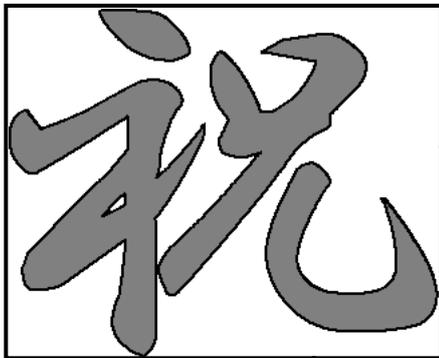
昔の紙面やあの人が懐かしい

心が疲れたら、みんなで集おう!

みんなつど

2010年から2013年の全26号収録

オールカラー限定版
発行：みんなつど編集部



読まれて愛されて

天地成行（小森裕之）さま、ご無沙汰しております。

様々な苦悩を受け止め、新しいことに挑戦され、人には癒しを与え、素晴らしい在り様です。

もともと、頭がよく、さらに自分の事は差しおいてのがんばりやさん！ですから、神様が、さらに違った角度からの才能を引き出す手立てをされました。

統合失調症という難しい病気、自分で克服することは一筋縄ではいかないのでは？ 周囲の理解と、家族の愛と、自身の努力。。どれも大変な努力のもとにあります。それでも自分の努力とかモチベーションを保つのが一番大変なのでは。

”自身を知る”という大きな課題に突

き進み、今では、以前の新聞記者さんさながらの「みんなつど」編集。あっぱれのひと言ですよ。

一人三役の脳内会話も、小森さんだからできる、小森さんかなしえなないこと。

外野はその会話を、ダジャレやおやじギャグ？ と思ったとしてもですが、何とその楽しさが深いのです！ 「小野茶でchachacha」もさすが、「みんなちがってみんな変」は、別に替え歌でもダジャレでもなく、理路整然、まったくそのとおり！ いえいえ、この方がむしろ真実味が（；）

病気を決して悲観的に捉えず、常に前向きの小森さん。今後ますます、明るく楽しくテキストに「みんなつど」が続きますように。（やまぐちのひーちゃん）

笑って心休ませて

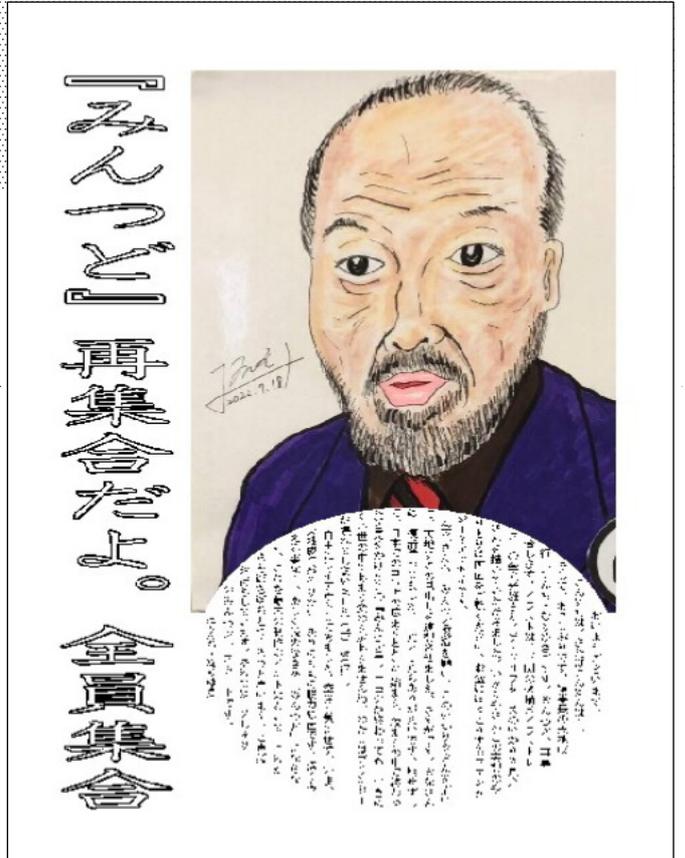
「みんなつど」50号、おめでとございます。「継続は力なり」、とよく言うものの、言うはやすく行うはなんとやら。コロナで自粛の頃から今日まで、何度も心休まる機会をいただきました。みんなのつどう憩いの場を創り出してくれた天地さんに感謝。また、「みんなつど」がこれからも末永く、ゆる〜く、続いていくことを期待しています。

（國學院大學観光まちづくり学部観光まちづくり学科准教授・松本貴文）

最終号からの再集合 真夏のみんなつど

ミステリー

昨夏に29号で復刊、最終号から再集合した「みんなつど」を観た、愛読者から以下のような感想を受けて、驚きを得ることになる再集合のみんなつどなのでした。



なんのことですか？

愛読者さん「またまた〜、とほげちやつて。いかりやさんのイラストが描かれたのと今回の再集合に意味があることを、わたしは見抜きましたわよ〜」

てんち「うっ？ ますますわかりませんが。あつしは、テキトーにまたやつてもよいかと。またコロナも危なそうだし。そんな神さまや仏様の指令があったわけではないですう」

愛読者さん「あら？ それならなぜ四面エッセイで金光光雄さんが1年前(二〇二二年)に描いていたとオトしたかしら？」

29号で復刊、最終号から再集合した「みんなつど」を観た読者からこんなやりとりが実はあります。

とある愛読者さん「さすが天地成行さん宇宙と会話もできるんですね〜」

てんち「えっ？」

拡大して署名をみたら、日付は二〇二二年七月一八日。つまり、首都圏のお盆(八月盆は地方に多い)が、終わって、みんなつども28号が終わっていたから、金光光雄さんになにかインスピレーションみたいなものが伝達されたのではないかしら？ それを二〇二三年に、あなたは感じ取り紙面にしたのよ！ どーよ、まいっただしよー」

「メー(名) 優のいかりや長介さん。小野にも降臨してね(モモ)」



てんち「おお、導かれちゃったんですか〜！ アタクシ。自動筆記スタイルのエッセイにそねいな意味があったとは〜」

29号から50号までの特別冊子でお会いしましょう。2024年の発行は29-50号の合冊とさせていただきます。(天地成行)

清酒「聖文」で徳山漬「まぐろ」



「みんなつど」50号も無事閉幕。冊子でお会いしましょう！